



各種ご支援方法につきまして

■銀行振込でのご支援

仙台銀行 歌津支店 店番号 405 普通口座 3101961
口座名 「伊里前牡蠣復興支援 結っこ基金」代表 千葉 正海
イサトマエカキフッコウシエン ユイッコキキン ダイヒョウ チバマサミ

※銀行振込の場合、ご入金と共に、ホームページの専用メールフォームにてお振込日、振込金額（口数）、郵便番号、住所、氏名、電話番号をお知らせください。またはハガキにて、同内容を
〒988-0423 宮城県本吉郡南三陸町 歌津字柁沢 28-1 平成の森 テニスコート仮設住宅 4-5
「伊里前牡蠣復興支援 結っこ基金」までお送りください。

■現金書留によるご支援

口数と金額をご明記の上、ご住所・郵便番号・氏名・電話番号・メールアドレス（なくても可）を明記の上
〒988-0423 宮城県本吉郡南三陸町 歌津字柁沢 28-1
平成の森テニスコート仮設住宅 4-5 「伊里前牡蠣復興支援 結っこ基金」
まで、現金書留にてご郵送ください。

■郵便振替でのご支援

志津川郵便局 通帳記号 022604 通帳番号 118427
加入者名 「伊里前牡蠣復興支援 結っこ基金」
※郵便振替の場合、メールアドレスがある場合は、通信欄にご記載ください。

※皆様への受領書について

ご支援のお申し込みはいずれも一口1万円からお願いいたします。銀行振込の場合は入金確認後、受領番号を記載したメール、現金書留の場合は受領番号を記載したハガキを返信いたします。その他は、入金確認された後、下記ホームページに、受領番号と共にカタカナ表記にてお名前を記載することで、受領書の発行に変えさせていただきます。ご住所・電話番号などのデータはこちらで厳重に保管し、他に流用することはありません。

企画・編集: 野辺律子(コピーライター)
デザイン・制作: 相澤久美、中尾悠、若松海(震災リゲイン)
※この印刷物はボランティア有志により、制作されています。

まげねど!



南三陸町歌津伊里前
牡蠣養殖復興に挑む一家に、皆様のご支援を!



伊里前牡蠣復興支援 結っこ基金ホームページ
<http://www.maruta-takuyo.co.jp>

3月11日午後2:46直後、

大津波が来ると感じて家族を避難させ、船を守るために一人、沖に出ました。

白い泡だらけの海面が前方に迫り、とにかく沖に進まなくてはと、必死に操船しました。
やがて海流の変化で、魚群探知機の画面が真っ赤になり、水深が普段よりも15メートル近くも膨れ上がりました。

それが、南三陸町歌津伊里前を襲った津波の高さだったのでしょうか。

翌朝、午前8:30頃、瓦礫が埋め尽くされた海を帰ってくると、わが町は壊滅していました。

無我夢中の避難所生活が過ぎました。

何度も家族で話し合いをし、26歳になる息子と「もう一度、残されたこの船を使い、

50年間継承してきた牡蠣養殖を復活させよう」と、決断しました。

しかし、現在の伊里前には船をつける岸壁はありません。

牡蠣筏(いかだ)もフォークリフトも津波に飲まれて流されました。

さらに、牡蠣剥き場や濾過場、必要なすべてを失いました。

国の援助ははまだ具体的な見通しがつかず、再建には新たに莫大な個人負担が必要です。

牡蠣筏に関しては、将来的に「激甚災害の特別財政援助」が見込まれていますが、領収書類を提出しての「立て替え・後払い方式」となっているため、無収入の被災者である私達家族は、資金捻出ができません。

さらに深刻なのは、伊里前湾で牡蠣養殖を営んでいた8世帯の漁師が、

高齢を理由に牡蠣養殖の再建を諦め、ワカメ養殖に切り替えたため、協業ができないという現状です。

このままでは、伝統ある伊里前湾の牡蠣養殖が途絶えてしまいます。

牡蠣養殖を中心とする水産業は加工業、飲食店、観光業、すべての産業をつなげる礎です。水産業の復興なくしては、

この歌津の復興はありえません。来春、現実的に「牡蠣筏」を浮かべるための資金援助、行政援助がない「フォークリフト」購入、「牡蠣剥き処理施設」建設へ向け、皆様のご支援をお願いいたします。ご支援金をもとに、家族一丸となり、出来る限りの行動を一步一步始め、来春からの牡蠣養殖再開への道を拓いていきます。

どうか今、皆様お一人おひとりの「結」の力をお貸しください。

株式会社 マルタ拓洋水産 代表取締役 千葉 正海



●千葉家紹介

千葉 正海 [写真中央] 牡蠣漁師二代目 歌津伊里前契約会・会長
1955年生まれ。元祿六年から伝わる自動・公助・共助の3つからなる「伊里前契約会」の会長。助け合いの精神「結」を信念とし、町づくりと家業の牡蠣養殖と水産業の復興を考え奮闘中。

千葉 和恵(正海の妻) [写真右端]
1958年生まれ。牡蠣仕事に誇りと夢を持ち、命を懸けて仕事をしてきた。豊かな三陸の海や自然の素晴らしさ、牡蠣の素晴らしさを共に感じ合える未来を夢みている。

千葉 拓(長男) [写真左から2番目] 牡蠣漁師三代目
1985年生まれ。現在は一年間の臨時職員として、老人介護施設で介護ヘルパーをしながら生計をたてる。牡蠣漁師二代目の父と共に、若手後継者として、牡蠣養殖業の復興に命を懸けている。

千葉 良子(長男の嫁) [写真左端]
1985年生まれ。二世帯住宅での新生活をスタートし、わずか半年で震災に遭遇。現在は仮設住宅で子育てに奮闘中。小さな子供と家族全員の安定した暮らしを望む。

千葉 彩音(長男の娘) [写真中央下]
2010年10月生まれの一歳。震災時は両親と共に妻の実家に避難。6月から歌津・平成の森の仮設住宅で暮らしている。最近歩けるようになりました。

平間 恵(長女) [写真右から2番目]
1982年生まれ。結婚し岩手県盛岡市在住。ふるさと歌津の復興を心から望む。「伊里前牡蠣復興支援 結っこ基金」では会計及びホームページ更新を担当。

ロン(飼犬)
今年8歳になる飼犬。震災時は和恵に抱かれて避難。現在は家族と共に仮設住宅で暮らし、たくさんの来客に可愛がられている。



●「伊里前牡蠣復興支援 結っこ基金」

「結」とは、南三陸町でも受け継がれてきた、小さな集落や自治単位における相互互助、共同作業の制度で、南三陸地方の方言では、親しみをこめて「結っこ」と呼ばれています。相互扶助の「ゆい」の意味のみならず、様々なものや人をつなげる「むすび」の意味の結も、その名前にこめました。皆様の結の力をお借りし、蘇った伊里前の海で安心・安全な最高の牡蠣を育てることが私たちの使命であり、最大の課題だと考えています。



●支援基金の目標額は6000万円です

ご支援をお願いするのは、以下の資材・施設です。

- ◆牡蠣筏 40台 1台111万円×40台=4,440万円
- ◆フォークリフト(3t以上)=約300万円 ◆牡蠣剥き処理施設 約2,000万円

●お申し込みは一口1万円からお願いします

お申し込みは一口1万円からお願いいたします。後の国の助成を見込み、設備設置の6740万円のうち6000万円=6000口を目標額とさせていただきます。50%は牡蠣と送料・包材に使わせていただき、後に支援者にお返ししますので、実質的に復興基金として使用させていただくのは、3000万円の計算となります。人件費、通信費、船燃料費、軽トラック・フォークリフト等の作業車の燃料費、出荷検査料・牡蠣剥き殻処分代などの諸費用は、積算しておりません。

●「復興 結っこ牡蠣」で御礼をします

ご支援いただいた皆様には、将来的に、ご支援金の50%相当の「復興 結っこ牡蠣」(包材・送料などを含む)で御礼をします。より安全性の高い牡蠣をお届けするため、出荷前には必ず、専門機器による放射能検査を実施し、その測定値をお知らせします。また、収穫量が少ない場合は、次年度に順次繰り越しての送付、もしくは代替品を用意いたします。復興のあゆみ、ご支援金や資材などの現物支援の報告は、ホームページ上で随時お知らせいたします。

●南三陸町歌津伊里前の今

3.11の震災で、南三陸町・歌津は橋、駅、商店、公民館、ほとんどの住宅が失われる壊滅的な被害となりました。死者・不明者は116名にも及び、住民は町を離れた避難生活や仮設住宅での暮らしを余儀なくされています。現在、瓦礫は少しずつ片付けられ、一部では仮設商店も立ち始めましたが、流された船が今も残る道路など、いまだに手つかずのところも多くあります。伊里前湾の風景も一変しました。海面にあればほどに浮かんでいた牡蠣筏の姿は、ひとつも見えません。漁に使用する漁具は流失。収穫した牡蠣を剥く作業場や海水浄化設備等も、全壊しました。破壊された港には見上げる程に瓦礫が積み、岸壁は1メートルほど沈下、高潮・満潮時には船を着けることすら難しい現状です。しかし、私たちは牡蠣養殖の復興・水産業の復興に全力を尽くし、必ず美しいふるさとを取り戻します。



●伊里前湾牡蠣の特徴

伊里前湾産の牡蠣は、田東山からの清流と透明度の高い海水が混ざり合い、豊富なプランクトンが発生する場所で育成されるため、身の味が濃く、甘いのが特徴です。牡蠣筏というと、木組みの筏がイメージされると思いますが、伊里前湾では「水平垂下延縄式養成法」という、独特の養殖方法で牡蠣を育てます。この方法は耐波性が強いので、風波の強い湾口や沖合でも高品質の牡蠣が育ちます。牡蠣養殖は一年を通じ、作業が絶えない過酷な仕事ではありますが、歌津の復興のご支援により牡蠣養殖再開ができましたら、最高品質の伊里前湾の牡蠣を日本中の皆様にお届けできるよう、精一杯仕事をしていきます。また、合わせて子供たちや観光客への「牡蠣剥き体験」などの自然体験・学習の場へつなげ、魅力のある町づくりを考えていきます。

